



名古屋いのちの電話



写真 文 珠 幹 夫

夕空

坂村真民

わたしはいつもひとりだから
あたたかいひとのところにふれると
ほろりとする

生きていることがうれしくなる
暮らしていくことに力がでる

今日あなたに会って帰るさの

夕の空のきれいだったこと

近々虹までたつではないか
ちかぢか

あゝ

わたしはもう

野心もなく欲もない

ただしずかに生きてゆきたい

美しいひとの美しい心にふれて

こころみださず生きてゆきたい

「坂村真民詩画集3」

美に生きる」より

「いのち」を愛おしむ

島田麗子



私たちは普段、生きているのが当たり前のように日々を過ごしています。しかし、死に直面し、残されたわずかな時間を数えつつ、自分の生の意味を問い、一日一日、一瞬一瞬の命を懸命に生きている人もこの世界には沢山いることをおぼえます。

私は今、獄中で死を待つ人のことで胸がしめつけられるような思いでいます。Mさん、Kさんという二人の死刑囚を私たちは信徒の仲間として持っているからです。教悔師をしていた私たちの牧師をとおして、この人々は獄中で神を信じる者となり、洗礼を受けて私たちの教会に籍をおいております。刑が確定するまでの間、私たちは何度かMさんを拘置所に訪ね面会することができましたが、死刑が確定してしまった後は親族以外の者は会うことも、文通も、差し入れも許されなくなりました。身よりのないMさんのためにせめて苦しい時を共に生きたいと願うのに、この規則は誠に理不盡で過酷なものに思われます。何時くるかわからないその日のために、どんな思いで毎日を生きているのでしょうか。法務大臣の判子一つで処刑の判断が下されるわけですが、刑の残酷さに加えて、死の恐怖に苛まれて生きる日々は受刑者にとってどんなにか耐え難いものなのでしょう。そして、その人を信仰の道に導き、信頼関係の中に生きる教悔師にとっても、最後の日に立ち会わねばならないという役目は誠に重いものです。牧師は夢の中でびっしょりと汗をかいて目覚めると告白しています。どのような重罪を犯したとはいえ、死刑を行うことは、国家の手による殺人であると思います。一日も早く死刑制度がなくなるこ

とを願わずにはおれません。

「いのち」のことを考えるとき、今年は丁度敗戦後50年、かの戦争で犠牲となった2000万人といわれるアジアの人々、300万人といわれる日本の軍人や市民の失われたいのちのことを心に刻みます。一口に2000万人といっても、一人一人に歴史があり、名前があり、家族があり、縁がある、かけがえのないいのちであったことを思えば、50年経っても、その傷はいえるものではありません。元従軍慰安婦といわれる人々の過酷な運命と生死にたいして、どのような謝罪と償いを成し得るのでしょうか。国中の宝をつんだとしても、失われた過去はかえってきません。この現実の前に私たちは言葉なく立ちどまります。

最近はおウムによる残酷な犯行を連日目の前につきつけられています。坂本弁護士ご一家をはじめ、命をおとした多くの人々のいわれなき死が私たちに重くのしかかる毎日です。また阪神大震災によって失われた生命と、人生が狂ってしまい、今も苦しんでいる多くの人々の生活を思わずにいられません。自然災害は何時やってくるかわからないという恐ろしさを日本中が経験しました。

今年は本当に深く生と死の問題が、そして人間の苦しみと痛みが私たちに迫ってきた年でありました。経済成長に酔い知れていた日本人を直撃する数々の出来事が私たちに生きるということ、そして何が本当に大切なのかを考えさせてくれたように思います。一人一人が、社会が、国が、かけがえのない「いのち」を一層愛しむものになることを祈りたいとおもいます。

(前日本YWC A総幹事)

やがて大河内君の一周忌がやってきます。静かで平和な農村地帯の真ん中、ごく普通の家庭、取り立てるほどの問題のない中学校、そこで自殺がおこったのです。青天の霹靂とはまさにこのことをいうのでしょ。多少の経緯があつて長文の遺書と日記がマスコミに渡つた時から、事態は家族も学校も思いもよらなかつた方向に進みました。マスコミはこの自殺についてのおぼろげな情報の中の片言隻句をとらえ、これを針小棒大に伝え、ついに第二の岡田由希子事件、つまり群発自殺を引き起こしました。それのみかこの自殺事件を「いじめ問題」ととらえて、「いじめ撲滅」という世論を作り上げてしまいました。

私は事件の経緯を追いつつ、いくつかの発言を試みましたが、事態が沈静化したこの夏、その中学校を2回にわたつて訪問しました。またこの事件を最初に報道した記者および紙面の編集を担当した記者にも面接し、新聞では伝えられなかつたことや、伝わらなかつたことのいくつかを知りました。関係者に親しく会うことによつて初めて得られたことと実際のギャップの大きさに驚きました。そのうちのいくつかを取りあげてみます。

1. この学校は決して「荒れた学校」ではありません。この10年の平均欠席率は1.65%（1～3月のインフルエンザ流行期を除くと1.38%）で、音楽の授業も立派に成立っています。これはごく普通の中学校であることを示しています。かつて1985年、青森県野辺地中学校の自殺が校内暴力の荒れすさんださなかに起つたとは違つています。校内暴力＝自殺という思い込みが報道をひずませてしまいました。
2. 担任はとてもしっかりした方で、中学の経験は短いとはいえ、生徒ときちんと向かいあつておられました。その生徒に多少不安定なものを感じてはおりましたが、よもや自殺に至るとは考えておられませんでした。私の貧しい経験からいうと、死を思ひつた生徒と

の面接はまことに厳しいもので、死んでほしくない願いと、死なないうらうという希望的な観測がいろいろ交じつて、複雑な心境に陥ります。相手を信じたい気持ちから、危険を他にしらせるのをためらいがちになるのです。多くの場合、そこにできた信頼関係が死から引き離す力となるのです。自殺のサインを読み取れとは正論ですが、その後をどう繋いでいくかはとても難しい問題です。

伝えられなかつたこと

長岡利貞



3. 家族は強い自責の念をお持ちと推察します。経緯があつて遺書をマスコミに渡されましたが、それが全文、しかもあのような情緒的な見出し語をつけて載るものとは思つてもおられませんでした。一社が報道すると、やがて競争の状態になり、あの修羅場のような報道合戦になつてしまつたのです。
4. このような事件で普段取り上げられるのは加害者側に関する情報ですが、それが青少年の保護という法のタテマエから、もつぱら取材の対象が「学校」に絞られてしまいました。そのおり、傍若無人ともいふべきイエロージャーナリズムの取材から生徒と先生の生活、および学校の秩序を守るために、学校がロープを貼つたり、取材自粛の申し入れをしたことが、マスコミの逆鱗に触れ、その意図が裏目にでてしまいました。

それにしても彼の伝えたい思いが、残念ながら「遺書」という形でしかできなかつたことです。彼が生と死との間を揺れ惑つていたとき、もし私達「いのちの電話」の番号が彼の手帳の片隅にでも書かれていたらと悔やまれてなりません。電話番号を周知することも私達の運動の中の大きな仕事であると考えます。

（訓練委員長・椋山女学園大学人間関係学部教授）



公開講座「すこやかであること」

戸田安士

今日は久しぶりに「いのちの電話」を支えておられる方々にお会いすることが出来て嬉しいことです。

私が大学入学時から先輩として敬愛する長岡先生がお声を掛けてくださり、好きなように話せということでしたから、私は40年近い臨床医の日常から学んだいのちの営みから、健康であることはどんなことかを考えてみたいと思います。

1. いのちの営みのしなやかさ

私の父は49歳で肺結核で死にましたが、3年の闘病生活を除いては、疲れも知らず、風邪も引かない頑健さを誇っていました。その父が当時の平均寿命よりずっと早く逝ったのです。

このような例、あるいはその逆の例も決して稀なものではありません。ですから、私たちは、健康をその時々で横断的にではなく、生涯健康の立場から縦断的に捉えることの大切さに気付かされます。

そのような視点で、私の父の健康を捉え直しますと、疲れを知らない、風邪も引かないと誇っていたことが、必要な時にも疲れを覚え、風邪も引けない欠陥をはらんでいたということになります。いのちの営みは、本当に疲れるべき時に疲れを覚え、風邪を引いて当然な時にはそうなる、つまり外からの刺激に対して、適切に反応する（よしんば、それが好ましいものでなくても）ことが大事だと知らされます。

それは心の領域でも言えるのではないのでしょうか。フランスのある精神医学者が「状況に応じて、いろんな自分が出せることの大切さ」を指摘していましたが、悩むことは全てよくないことという現今ありがちな理解に対して、まっとうに悩むこと、悩めることは健やかな心の反応だと教えられ

ます。

このように、身体であれ、心であれ、健やかであることは、一定のゆらぎを許すしなやかさ、懐の深さを持っているように思うのです。

2. いのちの営みのきびしさ

私共は肉を食べても当然おなか消化してくれるものと信じて疑いません。しかし、同じ肉から出来ている胃や腸はどうして消化されないのでしょうか。今日の医学は、それは自分を消化しようとする力に抵抗する防御システムがあるからだと言明します。

同じことが、どうやら、がん細胞との間にもあるようです。私たちの身体ががんを発病しないのは、がん細胞が発生しないからではなく、それを目ざとく見つけて処理をする力が備っているからだと言われています。

いのちの営みは、このように、ある種の攻めぎ合いであり、己れを否定しようとする力に、その時々打ち克って保持されるものであることが分ります。健やかであることは、このようなダイナミックないのちの営みの過程なのです。

3. 支えあって保たれるいのちの営み

これまで、いのちの営みの「しなやかさ」や「きびしさ」から、いのちは、いのちにとっての光だけで営まれているのではなく、いわばその影とも言えるものとの関わりのなかでも営まれていることが分ります。つまり、影あつての光であり、光あつての影という関係です。

この事は、私たちの現実の社会でも見られるのではないのでしょうか。本年4月、名古屋で開催された医学総会の閉会講演は、大江健三郎氏の「癒されるもの」と題した感銘深いものでした。ノーベル賞に輝く大江文学は、知的障害者のご子息、光さんの存在なくしてはありえないものであり、作者である大江さん自身が光さんによって癒される過程で生れたものだと語っておられました。

ここにも、いのちの営みに見た光と影の見事な展開がなされていることが分ります。確かに、私たちは支えあうことで生かされています。パークマンとザイムという二人の研究者は、社会的支援ネットワークの密度と死亡率に負の相関があることを初めて実証したことで知られています。

ご援助ありがとうございました

1995年5月1日より9月末日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に報告申し上げます。(順不同・敬称略)

社会福祉法人愛知いのちの電話協会
理事長 相馬 信夫
財務委員会

賛助会員 A

山口 幸男	大村 祐子	鈴木 武二	笠井 康助	山田 正武	水野 由吉
伊藤 孝一	近藤 昭二	岩田 充二	田中 一敏	古橋 義之	藤吉 康司
堀田 正俊	守野 暢洋	柳原 佳枝	川村 敏夫	金澤 強子	岩野 一郎
岩野 翠	小川 邦泰	伊藤 倫子	早川 喜久雄	田中 良子	沢田 直次
澁澤 治子	伊藤 美江子	兒島 竜雄	太田 喜久雄	三田村 とま	田畑 洋子
石黒 友敬	梨本 将代	橋本 順子	曾澤 俊三	飯尾 邦彦	福井 隆二
石川 顕次	高橋 多寿江	梶浦 和宗	牧岡 恒夫	高田 浩一郎	出口 美津江
福田 佳代子	鈴木 保子	早川 直井	高木 欣也	荒川 廣信	小塚 田道
小川 マリ子	臼井 治春	伊部 宏	寺西 一雄	中野 信正	塚野 悦美
石田 弘幸	加藤 迪人	伊部 宏	寺西 一雄	中野 信正	塚野 悦美
田中 健次郎	山口 真人	井 寛	木 本 精之助	木 島 正 司	

賛助会員 B

鈴木 牙子	下郷 弥太郎	青山 玄	宇治谷 義雄	大和田 康司	坂東 信吾
橋本 良男	三上 茂	安田 元	安田 ミチ子	相川 義治	大隅 甲吾
山田 美代子	水野 久	若山 幸	神田 輝夫	豊田 理恵	大田 孝彰
亀山 千恵子	大塚 弥生	柳澤 幸	前田 誠一	荻原 邦子	小沢 野登
近藤 直枝	村松 正	加古 一	桜井 房孝	岩田 三輪	河西 島睦
三浦 一秋	松井 くら	○杉本 直	○高須 孝司	森 幸子	西初 井英
西島 悦代	森崎 康宜	持田 内	田 昭	平 泉	西村 田久
浅井 きみ子	加藤 倫子	田 一	勝 荒	高 須	西 菊
阿知波 達仁	五藤 昭子	佐竹 一	荒川 良	服 部	岩 田
福岡 敬子	鈴木 富子	○鎌田 蓉	飯田 和	服 部	岩 田
竹内 哲子	伊藤 恵美子	宮 内 英	阿 部 茂		

上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただいております。

○印の方は1995年度賛助会員募集運動に協力し入会して下さった方々です。

点滴

1995年は「終戦50年」ということで、マスコミは一大キャンペーンを準備していただろう。ところが、年明けとともに「阪神大震災」、つづいて春の眠気をさました「オウム事件」と、歴史に残る事柄が続発してしまった。マスコミもあわてただろう。

予期せぬ出来事に会った時に、心の深層が出てしまうことがおおい。オウムの信者達が逮捕されていく現場を中継するTVレポーターのなにげない言葉に私はハッとした。

「この人たちは魔が差したのでしょうか」とのひと言です。

この日本的表現とは対照的に、五月に日本を訪問した英国のサッチャー前首相の首相官邸でのあいさつの言葉も目にとまった。「想像を絶する死者を出した阪神大震災と、人間の悪によってもたらされた毒ガス事件。……」(新聞記事)との表現です。

あのような事件は「魔が差す」(「悪魔が心に入りこんだように、ふと悪念を起す」『広辞苑』)ことによって、タマタマふと起ったのだろうか。それとも、私達の誰もがガッパリ持っている「人間の悪」によってもたらされたのだろうか。

「人間の悪」の問いは難題だろう。世界的週刊誌『タイム』は毎号のごとく、世界の悲惨な現実の姿を写し出している。私達の日々は悪との闘いだろうか。「悪より救いだし給え」と祈るばかりである。

(H・A)

賛助会員C

水野子	加藤武	金子一	夫石	田喜	松田	一路	松田	昭
田中あさ子	藤原とよ子	浜野正	大野子	野邦忠	佐野	百合子	真木	芳子
林温江	森下眸	山内一	大山一	下タカ子	原久枝	久枝子	岡崎	和子
長沼てる子	塚本泉	竹内宏	竹内宏	文子	敦好	昭子	熊谷	行雄
榎尾一	西澤敏夫	多和田いみ子	多和田いみ子	文子	古谷昭子	昭子	小川	祐美子
浅野総	相馬貞蔵	朝倉夏雄	朝倉夏雄	建子	松原陽子	一	西田	スエ子
山野トシミ	澄川和子	小島初江	小島初江	辰男	○太飯重五郎	重五郎	酒井	ゆかり
宮田喜代子	山本澄子	○桜木佐志子	○伊武鈴高野	藤明子	飯塚出川	典	浦下	桂子
近藤多美	山田すゑ	岩佐川	岩佐川	岡智子	小川	長子	山本	妙子
片山悦子	斉藤喜世子	荒川和	荒川和	木孝	中谷	塩子	鈴木	浩之
内田勢津子	小川猛	早川君	早川君	橋村	山下	マサメ	松木	靖子
高橋栄一	細田智津子	五十君	五十君	紘子	山		植木	貞次郎
中井加代子	佐藤嘉孝							

寄付金

山崎百合子	内川正邦	土田クリスティーナ	日本福音ルーテル希望教会	鬼頭明枝
千波富美子	中辻三千代	坂東信吾	小島丈夫	山鶴家芝小高岡菅
山下登代子	加藤みゆき	安田律子	岩間千珠	明田祐子
野村妙子	梶原寿	中川鋪美	棚橋本良	田原ゆかり
後藤忠一	成木さち	見木靖	橋本良子	和優江
服部英身	○鈴木のぞみ	大島藤昭	岡昌子	本紀子
豊田江美	西堀勢子	五藤たか枝	栗田知江	正宏子
西村洲衛男	野口博之	林野信一	柴田金	恒子
佐野文彦	○吉岡満智子	長野竹	森	
水谷宜美	小栗和子	佐		

法人賛助

宝泉寺	薬師寺 柿本大真	布池カトリック教会	法蔵寺	崇覚寺
小鹿印刷株式会社	(株)サンゲツ	社団法人名古屋中村法人会		

10周年記念基金寄付 賛助会員

○(株)エクシング	岡谷鋼機(株)	高木康彦	長岡利貞
(株)サンゲツ	(株)ボスカンパニー	名古屋鉄道(株)	(株)ミリオンカードサービス
セントラルリース(株)	東栄(株)	アイカ工業(株)	名古屋テレビ放送(株)
日本電信電話(株)東海支社	タキヒョー(株)	新日本製鐵(株)名古屋製鐵所	
ブラザー工業(株)	日本電話施設(株)	瀧定(株)	大同メタル工業(株)
トヨタ自動車(株)	中部鋼鉄(株)		

基金

宗教法人薬師寺

全国研修会名古屋大会準備進む!!

開局10周年を記念して、記念式感謝会・フリーマーケット・プラスコンサートが次々に実施され、明年に控えた全国研修会開催の準備が進められている。

第17回全国研修会名古屋大会

開催日時	1996年11月14日(木)~16日(土)	・基調講演 講師 河合雅雄 先生
開催場所	名古屋国際会議場 及び名古屋クラウンホテル	日本福祉大学教授 京都大学名誉教授

- ・大会のテーマ
 - 引き継ぐバトン ひとりひとりの力
 - みなおそう つくりだそう 新しいいのちの電話 —
- ・分科会 20グループ
 - 1. 応用実践編 9グループ
 - 2. 基礎理論編 9グループ
 - 3. 組織・運営編 2グループ

10周年記念事業 プラス・コンサート

と き 1995年11月4日(土) 14:00~16:30 主 催 社会福祉法人 愛知いのちの電話協会
 と ころ 名古屋港湾会館 (地下鉄 名古屋港下車) 後 援 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会
 出 演 新日鐵名古屋製鐵所吹奏楽団 NHK厚生文化事業団 中日新聞社会事業団
 岡崎市民吹奏楽団 東海テレビ福祉文化事業団
 野村 勤 (フルート独奏)

愛知いのちの電話協会日誌

- 5月15日 訓練委員会
- 17日 愛知電話相談ネットワークの会
- 19日 全国研修会準備委員会
- 22日 第16回 評議員会、第18回 理事会
- 29日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 31日 基金募集委員会
- 6月12日 世話人会
- 19日 訓練委員会、全国研修会準備委員会
- 21日 ケース研修会
- 23~25日 全国電話相談ワークショップ
- 24日 自殺予防シンポジウム (大阪)
- 7月10日 訓練委員会、世話人会
- 15~16日 9期養成講座一泊研修会 (多治見)
- 24日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 26日 継続研修を考る会
- 31日 全国研修会準備委員会
- 8月28日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 31日 基金募集委員会、財務委員会
- 9月4日 世話人会、記念誌編集委員会
- 7日 記念式準備委員会、記念誌編集委員会
- 9日 カンボ心の健康公開講座
フォーラム、世話人会総会
- 9~10日 訓練担当者研修会 (有馬)
- 11日 全国研修会準備委員会
- 13日 愛知電話相談ネットワークの会
- 14日 日本いのちの電話連盟ディレクター会議(大阪)
- 18日 訓練委員会
- 20日 記念誌編集委員会
総務・10周年記念事業合同委員会
- 27日 電気通信普及財団より寄贈贈呈式 (東京)
- 10月2日 全国研修会準備委員会
- 9日 世話人会
- 16日 総務・10周年記念事業合同委員会
- 20日 財務委員会
- 23日 第17回 評議員会、第19回 理事会、訓練委員会
- 27日 10周年記念式・感謝会 (アイリス愛知)
- 29日 フリーマーケット (東別院)

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします
 いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。
 年間2,000万円の運営資金と共に、法人の基金を10年間で1億円積立の課題を与えられております。
 会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力を添えて下さいますようお願いいたします。
 法人となり寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円
- (2) 賛助会員 (年間1口)
A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
- (3) 一般寄付はご自由な金額で結構です。
- (4) 夏期・年末寄付

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 理事長 相馬信夫
 口座番号 東海銀行大津町支店(普) 477029
 郵便振替口座 00810-8-53758
 お問い合わせは…
 社会福祉法人愛知いのちの電話協会
 事務局 ☎ 971-5181

編集後記

新入り編集者が2人加わりました。新しい仕事にマゴマゴしていますが、素人なりに少しでも新鮮な視点が出せたらと思います。どうぞよろしく。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

1995年晩秋

名古屋いのちの電話

〒461-91 名古屋東郵便局 私書箱第257号

1995年11月1日発行

事務局 ☎ 052-971-5181

郵便振替口座 00810-8-53758

発行人 相馬 信夫

相談電話 ☎ 052-971-4343

東海銀行大津町支店(普)預金口座 477029

編集人 広報委員会